



頬部のミズ状斑紋が特徴的。同属種と識別は容易。オスの成魚。あわら市産 全長：約8cm

ハゼ科 ヨシノボリ属 【全長】10cmを超える

シマヨシノボリ

学名: *Rhinogobius nagoyae*

分布域 本州・四国・九州に分布する。

生息域 主に河川中流域の礫底部に生息する。比較的個体数は多い。



メスは産卵期に腹部が青く色付く。

頬部に紅色のミズ状の模様があり、同属種との識別は容易。体色は変異に富む。主に河川中流域の流水域、礫底部の浅い落ち込みなどに生息する。生息地での生息数は比較的多い。食性は雑食性で底生動物や付着藻類を食べる。産卵期は春～夏(5～7月)で、オスが半分砂に埋もれた石の下を掘って産卵室を造り、メスを誘い入れる。成熟したメスは腹部が鮮やかな青色に染まる。産卵後もオスは卵を保護する。孵化した仔魚は海まで下り、海で稚魚にまで成長し河川に遡上する。

水槽での飼育は可能。餌は冷凍赤虫や配合飼料に慣れる。口を使って転石の下を掘り、巣穴などを掘る行動も観察できる。

在来種

回遊魚

※ 頬部にあるミズ状であずき色の斑紋が特徴的な種だが、沖縄地方の本種はその斑紋が太い。分布域の広い種の移動は、遺伝子の攪乱につながる。